

第57次 日教組全国学校事務研究集会(鳥取集会)



全体会

7月29日(金)～31日(日)の3日間、鳥取県米子市にて第57次日教組全国学校事務研究集会が開催されました。今年も全国から多くの事務職員が集まり、福井県からは10名の事務職員が参加しました。

1日目

全体交流会が催され、楽しい会話を通して、他県の実務職員同士の交流が図れました。



記念講演

2日目

日教組事務職員部の薄田綾子部長から、事務職員制度や賃金、人事評価制度について情勢報告があり、その後「熊本地震」「東日本大震災」の現地報告がありました。続いて「心のパートナー オフィースうたことば」代表の石川達之氏から「救急現場が教える人の心を強くする方法」という演題で記念講演が行われました。32年間消防署で勤務された経験をもとに、感情疲労のコントロールやポジティブ心理学などの話を自作の歌をまじえて話していただきました。特に「何もなくても平凡な今が幸せ」という言葉が心に残り、心が温かくなるような大変有意義な時間となりました。

3日目

分科会で、実践事例をもとに、各県の事務職の現状や様々なとりくみについて話し合われました。

第1分科会「学校づくりに向けた学校事務の実践」に、小浜支部加斗小分会の藤本事務職員が「教育活動の活性化にむけて学校事務職員ができること」というテーマで発表しました。学校事務職員としての強みを活かし、学校運営に貢献したいとの考えからとりくんだ「行事別手続き一覧」について報告しました。発表の最後に「学校の教育活動の活性化や子どもたちの笑顔のために『つなぎ、調整する』役割をどう果たしていくのか、今後も実践し、考え続けていきたい」と話されていたことが印象的でした。後の意見交換では、「行事別手続き一覧」の活用について会場より意見や質問が多く出され、素晴らしい発表となったと思います。



藤本 事務職員

現在、学校事務職員をめぐる状況は、正規職員の確保や適正配置、職級の設置、人事評価制度、給与の適正化等様々な課題があります。その課題について、全国の仲間ととりくみや実践について交流し議論する中で、事務職員として何を大事にしなければならないのかを学び確認しあいました。各単組と情報交換を行うことができ、たいへん有意義な研究集会となりました。



分科会